

次世代MSAシステム運用によるプロファイリングサービス開始記念キャンペーン!!

カルナバイオサイエンスは、オリジナル次世代 Mobility Shift Assay (MSA) 検出システムの運用を開始し引き続き高品質なMSAプロファイリングサービスを皆様にご提供しております。この度、新システムの運用開始を記念して特別な2つのキャンペーンサービスをご用意しました。

カルナ独自開発MSA検出システムは、Sciex社のBioPhase™ 8800キャピラリー電気泳動システムとスループット向上のためにin-houseでプログラミングされた自動プレート処理アームで構成されています。この次世代MSA検出システムを用いて提供されるアッセイサービスでもこれまで同様、カルナが長年培ってきた知識と経験を基に全アッセイのアッセイ条件が最適化されており非常に再現性の高い信頼のおけるデータの提供をお約束しております。

新検出システムの完成と運用開始を記念してお届けする2つの特別キャンペーンは

2024年11月28日までのご注文が対象

ぜひ、この機会をご活用ください!

Offer 1 30% discount

生化学アッセイとセルベースアッセイサービスの組み合わせご利用により通常提供価格より30%割引

- >> Step 1: お客様の化合物を当社提供の生化学アッセイもしくはセルベースアッセイサービスのいずれかで評価
- >> Step 2: Step1 で評価された化合物をもう一方のサービスで評価される場合、Step 2 でご利用頂くサービスが通常提供価格より **30%割引価格** でご利用頂けます。

ご利用対象サービス

生化学アッセイ サービス

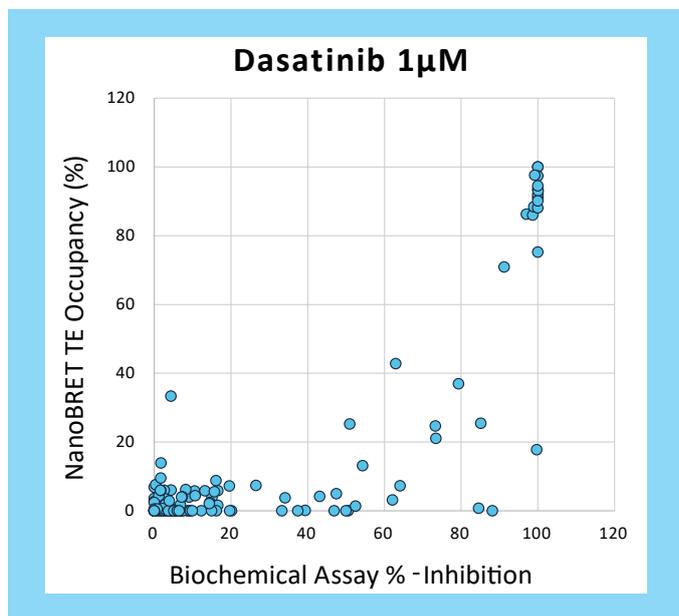
- モビリティシフトアッセイ (MSA) / IMAP™ サービス
- ADP-Glo™ アッセイ サービス

セルベースアッセイサービス

- NanoBRET™ TE セルベースキナーゼアッセイ サービス

Fig. 1: 生化学アッセイ (MSA, ELISA)* とセルベースのアッセイ (NanoBRET™ TE) データの比較。

*PLoS One. 2014; 9(3): e92146. Uitdehaag JC



生化学アッセイで得られた阻害剤の評価結果が細胞環境評価ではそのまま反映されない (Fig. 1) ことがあります。この様な変化は細胞内のATP濃度、キナーゼのリン酸化状態から起こるタンパク質の機能変化、さらには化合物の細胞透過性など評価環境の違いによって持たられている可能性があります。化合物の特性をより包括的に理解するためには生化学アッセイおよびセルベースアッセイ両方を用いて評価することが有用です。

キャンペーン詳細、ご利用のご相談等、皆様からのご連絡をお待ちしております。

当社ウェブサイト (<https://www.carnabio.com/japanese/product/>) から、または info@carnabio.com までご連絡下さい。

Offer 2 は裏面をご覧ください 



次世代MSAシステム運用によるプロファイリングサービス開始記念キャンペーン!!

カルナバイオサイエンスは、オリジナル次世代 Mobility Shift Assay (MSA) 検出システムの運用を開始し引き続き高品質なMSAプロファイリングサービスを皆様にご提供しております。この度、新システムの運用開始を記念して特別な2つのキャンペーンサービスをご用意しました。

Offer 2

Zero cost

無償フォローアップ IC₅₀ 値算出試験!

- Step 1: お客様の化合物を当社提供阻害率測定試験で評価
- Step 2: Step1 で評価された化合物の**フォローアップ IC₅₀ 値算出試験を無償実施**

キャンペーン条件

1. Step1の試験を50以上のキナーゼターゲットに対してご利用頂いた場合、4キナーゼ*を上限としたターゲット数でIC₅₀値算出試験を無償提供 (1化合物毎)
2. Step1の試験を100以上のキナーゼターゲットに対してご利用頂いた場合、8キナーゼ*を上限としたターゲット数でIC₅₀値算出試験を無償提供 (1化合物毎)

* 無償フォローアップ IC₅₀ 値算出試験でお選び頂けるキナーゼターゲットは、その化合物が阻害率測定試験で 50%以上の阻害効果を示したターゲットに限られます。

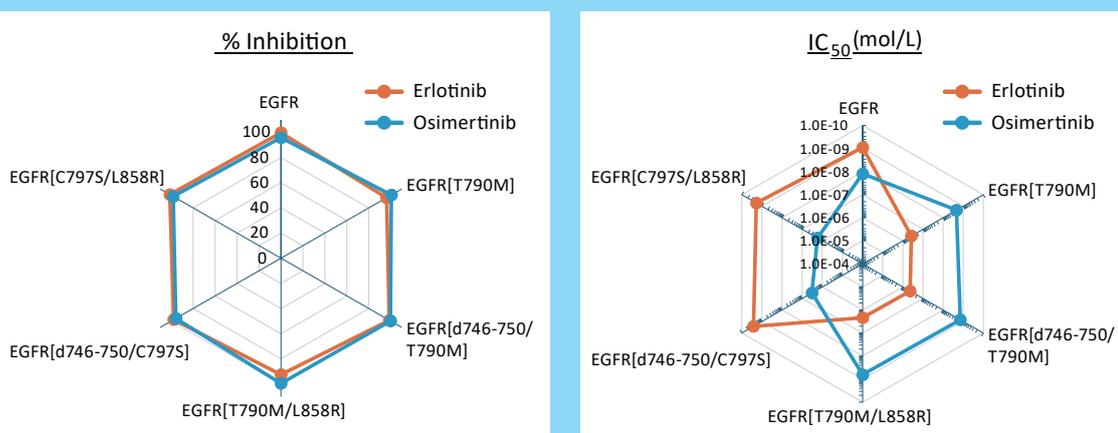
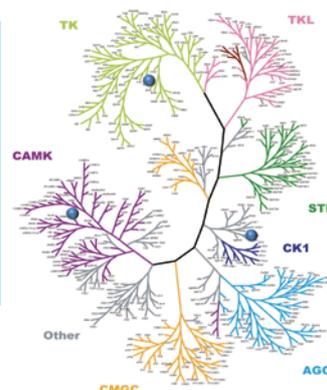


Fig. 2: 1濃度阻害率測定試験と IC₅₀ 値算出試験による化合物の特性評価。

MSA, ATP = Km, %inhibition at 10uM or 0.1uM of the compounds.

Fig. 2 はエルロチニブとオシメルチニブのEGFR ワイルドタイプおよび変異体に対して実施されたスクリーニングとIC₅₀値算出試験結果をレーダーチャートにて視覚的に比較したものです。スクリーニングでは特定濃度での多数のキナーゼに対する化合物活性が、一方、IC₅₀試験では特定のキナーゼに対する正確かつ実用的な化合物活性が測定されます。スクリーニング試験後にフォローアップIC₅₀値試験を行うことでその化合物のオンターゲットおよびオフターゲットに対する活性をより詳しく理解することができます。

試験報告にはお客様化合物の試験結果が視覚的にプロットされたキノムツリー (右図イメージ) が含まれます。化合物の特異性と活性の評価にお役立てください。



キャンペーン詳細、ご利用のご相談等、皆様からのご連絡をお待ちしております。

当社ウェブサイト(<https://www.carnabio.com/japanese/product/>)から、または info@carnabio.com までご連絡下さい。

Offer 1 は裏面をご覧ください 

